

啐啄

NO.699

☎ 25-5125

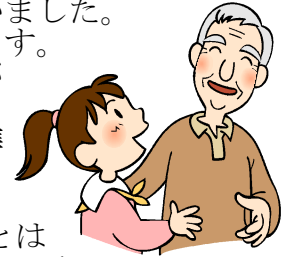
☎ 25-3150

「Win-Win」の関係

校長 峯 明 紀

いよいよ平成29年も残すところ10日あまりとなってしまいました。師走は逃げていくと言われますが、まったくその通りだと思います。

後期は学習発表会やマラソン大会、八戸市内の給食の関係者が集まった学校給食実践発表会など、様々な行事や発表を重ねてきました。特に、給食実践発表会では、寒さの中、受付や試食の準備・後始末などたくさんのご協力をいただき感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



さて、唐突ですが、今回の表題であります「Win-Win」とはどのような意味があるのでしょうか。もともとは、経営学用語の一つですが、最近では、よく「両者にとって得のある良好な関係」という意味で使われることが多いと思います。教師と子どもたちはどうでしょう。すべてが「得」のある関係とは言えませんが、教師も子どもも、授業や学校生活を通して、お互いの力を高め合うことができます。そういう意味では「Win-Win」の関係が存在すると言えるでしょう。学校と保護者の皆様とは、もちろん子どもの成長を通して「Win-Win」の関係でなければいけません。

それでは、地域の皆様による学校へのさまざまなボランティアはどうでしょうか。学校内外の環境整備や各学年のふるさとを学ぶ学習などにおいでくださり貴重なお話や体験をさせてくださったり、登下校の見守りをしてくださったりしていただくことは、学校にとってはこの上ない有益な活動であることは間違いありません。まさに学校にとっての「Win」なのです。私は、学校に来てくださるボランティアの皆様にとっても「Win」であってほしいと強く思っています。

皆様の中にもすでに目を通した方もおられると思いますが、大館公民館で発行している「はなしの広場」の館長コラム「わの言いたい放題」にそのヒントが隠されているのではないのでしょうか。館長さん、ごめんなさい。勝手に引用させていただきます。

「前文略～しかし、それ以上に素晴らしい劇と、私は出会った。新井田小学校6年生の劇がそれである。先生と子ども達が正にゼロから創り出した創作劇「新田城物語」である。新田城まつりを学んだ歴史教室が事の発端だそうだ。学習後、「これを劇にしたい」と子どもが言いだし、先生方の心を動かしたというから素晴らしい。清心尼公を中心とした新田城の歴史に、まつりの場面や歴史学習の場面を組み入れ構成も工夫されていた。「あんなことも言いたい、こんなことも言いたい。と子ども達からアイデアが生まれ、セリフがどんどん増えていったんですよ」と、その時の苦労話を聞かされた。いや喜びの言葉である。劇作りの楽しさだ。「大人しい子があんな演技をできるなんて」「子どもが変わったんですよ」と担任の先生方。演劇教育の力を見せつけられたようで嬉しかった。遠野へ行くべきかどうかの話し合いは、子どもらしい発想で演じ、清心尼公の言葉も圧巻であった。正に秋の大館芸術大賞である。「新井田は素晴らしい所だ」「僕たちの故郷を大切にしたい」という言葉にホロリと涙がこぼれた。めぐいわらすあんど（子ども達）だ。

難しい内容だと思いましたが、全校朝会で子どもたちに紹介しました。心にしみるコラム、本当にありがとうございました。

平成30年目という節目の年を迎えるにあたり、学校も地域・保護者の皆様にとっても、「やってよかった」「参加してよかった」と思っただけ、まさに「Win-Win」をさらに力強く築ける学校と地域・保護者との関係でありたいと願っている、今日この頃です。



「啐啄」（そったく）：「啐」は卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音。
「啄」は母鶏が殻をかみ破ること。